

スマート農業技術の開発・実証・実装プロジェクト

【令和4年度補正予算額 4,400百万円】

<対策のポイント>

海外に依頼するところの大きい我が国の食料供給の安定化を図るため、**海外依存度の高い農業資材や労働力の削減、自給率の低い作物の生産性向上等、必要な技術の開発・改良から実証、実装に向けた情報発信までを総合的に取り組むこと**で生産現場のスマート化を加速します。

<事業目標>

農業の担い手のほぼ全てがデータを活用した農業を実践 [令和7年まで]

<事業の内容>

<事業イメージ>

1. 戦略的スマート農業技術の開発・改良

2,860百万円

海外依存度の高い農業資材や労働力の削減、自給率の低い作物の生産性向上等に**必要なスマート農業技術を開発・改良**します。

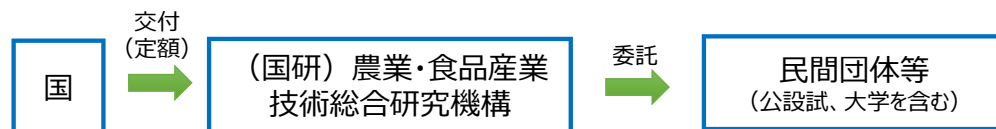
2. 戦略的スマート農業技術の実証・実装

1,540百万円

① 海外依存度の高い農業資材や労働力の削減、自給率の低い作物の生産性向上等に資するが、**データ不足等により市販化には至っていないスマート農業技術の実証**を行います。

② **実証データの情報発信**及び実証参加者が、その**成果を全国各地の生産者・産地に横展開する取組を推進**します。

<事業の流れ>



開発

○戦略的スマート農業技術の開発・改良

摘果・袋掛けロボット
人手に依存している作業の自動化技術

AI分析による斜度を踏まえた経路設計など、ほ場高低差も考慮した効率的な作業が可能な作業機械

実証

○戦略的スマート農業技術の実証・実装

ドローンによるセンシング
「ほ場内のNDVI(生育)のパラつき」をマップ化

「何らかの理由で生育不足」

マルチスペクトルカメラ

土壤診断データを加味

日照不足!

窒素不足!

リン過剰!

従来のセンシングによる肥料不足箇所の特定に加え、当該箇所の土壤診断データを加味することで、肥料成分ごとの必要量を正確に把握したうえでの可変施肥が可能となり、収量の向上と余分な肥料投与の抑制を両立。

実装

実証データの分析

実証成果等の情報発信

実証参加者による横展開

「スマート農業」の社会実装による食料供給の安定化

【お問い合わせ先】 農林水産技術会議事務局研究推進課 (03-3502-7437)